

中高生とともに差別と闘う

励ましの言葉

吉成タダシ



「励ましの言葉」

二月末、進路面談や高校志願者数の増減で、子どもも教師も気持ちさがさくれ立っているころです。保護者からの封筒が、毎朝のように子どもたちの手から私の手へと届けられてきました。保護者の方々からお願いして書いていただいた、「励ましの言葉」が入った封筒です。

子どもたちには内緒にしていた「励ましの言葉」。届いてきたものから封筒を覗き見るのですが、その度に、私の中に熱いものがこみあげてきました。毎朝のように、ささくれ立った私の心を癒し続けてくれました。子育ての中で起こった具体的なエピソードや伝えられなかったわが子への思い。シンプルな言葉の中に、保護者の方々の深い愛を感じました。同じようなわけにはいきませんが、それでも、「負けまい」と、教室の子どもたちに眼差しを向けていった残りの一ヶ月でした。

36人いれば36通りの言葉があります。それは、36通りの物語があるということ。その物語一つ一つに深い思いがあり、感動があります。その思いこそが、教育の原点なのだと思います。保護者の方々、あらためて学ばせていただいた、卒業までの残り一ヶ月でした。

雨だれ石を穿つ

「人生の分岐点に立つ君へ 詰襟学生服の喉元を少し気にしながら、あどけない笑顔で校門をくぐった

君。あれから三年、背丈の歴史は経験と様々な思い出の蓄積です。サツカーに明け暮れた中学生生活。決して主役ではなかったけれど、ひたむきに練習へと出かけていく背中

は、物事に打ち込むことの大切さをすでに背負っていましたね。中学校から高校へと進学を決めた君。これからの人生、自分の足元をしっかりと見つめ地面の感触を確かめながら一歩一歩、どうか力強く、ゆつくりとした歩調でいから進んでください。私たち両親から「雨だれ石を穿つ」という言葉を送ります。中学校卒業、本当におめでとう。」

親にとって子どもの成長は、生まれる前からスタートしています。そして、生まれたばかりの赤ちゃんのころ、幼少時代、小学生時代、中学生時代と、途切れることなく続いていきます。当たり前前のことですが、でも教師にとっては、ただかだか一年から数年のかかりです。そのことを、成長の過程をずっと見守つてこられたお家の方の言葉にあらためて気づかされます。教師が思う以上に、子どもに一番近いところで、酸いも甘いも噛み分けながら、ときに喜び、ときに悩み、子育てしてこられたのだと思います。レギュラーで頑張れば、それは嬉しいことでしょう。

でも、そうじゃなくても、あなたのそのがんばっている姿が、私たちに何ものにも代えがたい喜びののだと伝えたかったのだと思います。その頑張りをお見守り続け

ていくからねという心あたたまるメッセージでした。

あなたを信じてる

「いつまでも どこにいても 何をしてても あなたを信じてる」
いじめが原因で不登校になり、二の時に母と祖母の三人で転校してきた彼女。友達関係で受けた傷がなかなか癒えず、その不安感から、新しくできた友達にも神経質になつていました。そんな彼女を見離すことなく、ずっと一緒に、あたたかく共に歩み続けた友がいました。そこに居場所を見つけたことを、家庭での会話の中でよく知っていたお母さん。そんな娘の可能性をどこまでも信じようとする思いの強さを、短い言葉の中に見つけることができました。

幸せは自分の心が決めるもの

「どんなときも必ず道はある。その道は自分が創るもの。焦らず、比べず、諦めず、自分の力を信じ、人を大切に、何事も楽しみながら前進していこう。幸せは自分の心が決めるもの。総ては自分の考え次第」

母子二人、女手一つで育てあげてきたお母さんから贈られた言葉でした。まさに自身の生き方から絞り出してきた言葉のように感じました。「幸せとは？」その価値観について考えさせられます。子どもたちが語り合う中でもよく出てくる間

いですが、それを明快に示してくれている気がしました。幸せとは誰かに決められるものではない、自分自身が決めるものだと。「励ましの言葉」の一語一語を真剣に吟味して書かれているお母さんの姿が浮かんできます。

強い気持ちを信じよう

「卒業おめでとう 三年間、毎日学校の事を色々話してくれてありがとう。この受験で初めて自分で大きな決断をし、壁を乗り越えようとしていますね。そんな強い気持ちをお父さんもお母さんも信じようと思えました。これから先、色々な困難に遭ったときも、この事を思い出し、最後まで信じて見守ってくれた先生方にも感謝して頑張つて下さい。これからも応援しています。」

志をもつて、遠く離れた高校へ一人で進学する決断をします。よくある話かもしれませんが、だからといって軽々しいものではありません。やはりどの親子にとっても、それは重大な十五の決断なのです。思いつくままに道もあるでしょう。でも、「この子の人生を精一杯、できる限り応援をしていこう」と、両親も覚悟を決めて送り出そうとします。その思いに添えて、彼女も自分の能力をさらに高めていきます。家族の絆の強さが、互いの成長につながっているのだと感じさせる言葉でした。

(次回「メーテルリンクの『青い鳥』」)